

議題：大田区立道塚小学校 第5回学校運営協議会

日時：2023年1月28日（土曜） 11:00-12:20

場所：道塚小学校 2階 家庭科室

出席：

（委員）

河合会長、横山委員、加藤委員、岩井委員、花島委員

鶴岡委員、野崎委員、多田委員、瀬尾委員、梨本委員

安田委員、須田委員、細川委員（記）

（学校）

大場校長、藤田副校長

中島先生、中里先生、相磯先生、櫻井先生、北村先生

小糸先生、原先生、倉光先生

議事内容：

◆校長挨拶

→本日は、展覧会・学校公開でたくさんの方が入っている

→地域の方の展示も数年ぶりで行えている

→地域の方の協力に学校は感謝している

→学校は落ち着いている

→保護者からの学校教育活動に関する評価報告を資料で提示している

→評価は紙でなく Chrome で行ったが昨年の提出率と変わらず

→全8項目で昨年度より向上した

→学校・地域全体で良くしていきたいと考えている

◆今年度の学校評価について

●プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成

→「子どもの人権」についてもっと深めたい

→子ども自身に意識させるのが大事なことである

→子どもに対して、意見を聞く・選択肢をいくつも用意することが大事

→LGBTQについても注力している

→中学校の先生とも話をしている

→カウンセラーだけでなく専門家とつながることが大事といわれた

→言葉使い、子どもたちの人権について

→家庭での言葉使いも含めて、やっていくことが大事と考える

●プラン2 学力の向上

→ここだけ3をつけており課題があると考えられる

→来年度に向けて目標を明確にして進めることが大事である

→自学教室36回では、塾の宿題・プリントをやっている

→子ども達が、自主的に勉強することを支援、自分のいいものを見つける

→出席率は良い

→補習教室6回は、来て欲しい子がこない

→達人シリーズなど問題をクリアすることで、楽しめる勉強を考えている

→一人の子を複数の先生で見ることが重要である

→漫画は、読書で冊数に含めていないが、読んでいる子どもは多い

→セリフ/フレーズから子どもが感じることは多い

→子どもは漫画/アニメが好きなのは事実

→教育現場も柔軟に対応する必要があると思う

→子どものモチベーションを高めているものは何か

→週一回、図書の本三冊借りる、学期休みは五冊借りられるようにしている

→一二年生は読み聞かせをするなど、日常的にできることをやっている

→事例として、図書委員の子どもが紹介などの工夫をしている

→図書カードに親のコメントを書いてもらえるなど工夫をしている

- 司書が学校にすることがすばらしい、昔はいなかった
- 低学年の基礎の習得について、幼保から1年生になるが個人差が大きい
 - 幼保(29園)で個性を伸ばすということで英語に力入れるなどバラツキがある
 - 5歳からの2年間、幼保との連携や中学との連携が大事
 - 学校運営協議会委員に幼稚園の先生がいることは大事なことである
- 来週金曜日、29園の先生方と道塚小の先生方での話し合いの会がある
 - 幼保の先生方から子ども達について聞き取りをする
- ケーススタディとして支援センターの介在もある
 - 親から相談にこない、担任がついて行って教育相談に行くことがあった
 - 結果、サポートルームに入ることができ、親も子どもも学校も楽になる
 - いろいろな事情があることを感じる、学校の比重も大きい

●プラン3 豊かな心の育成

- 多国籍/多国語化が進み、これまでになかった問題がおきてきている
 - 先生方の負担もふえている
 - 大田区として言語教育など対応はしている
 - 外国籍の母親向けの案内があったが
 - 英語でかかれたチラシがある、自治会や学校に掲示をお願いしたい
- いじめ防止、毎週金曜日先生方で情報共有の会を行っている

●プラン4 体力の向上と健康の増進

- 早寝早起き朝ごはんのテーマソングを作った
 - 低学年の子どもが楽しく歌っている
 - 地域・家庭でブームに流れるぐらいに広げたい
 - 昼休み外に向けて流す、商店街で流してもらおう、PTAに広めるなど
 - 健康づくりの一貫であり、来年度は地域・家庭に広める

●プラン5 魅力ある教育環境づくり

- 特別支援学級、特別支援教室(サポートルーム)の違いは何か?
 - 教育センターのテストがあり、子どもの程度差で決まる
 - 子どもの状況や学校の仕組みを皆さん(学校運営協議委員)に理解してもらう必要があると思う
- 道塚小(50名程度)いる、サポートルームをよしとしない親もいるので(100名)ぐらいを先生は相手にしている
 - 人数が多いのは道塚小がサポートにしっかりと力を入れていることの現れと考える
 - 地域・家庭に理解してもらうことが重要である
- 担任・その先生が支援できるだけではダメで、周り全ての先生が対応できる必要がある
 - 先生みんなが同じ方向・対応できることが重要
 - 親ふくめ他の子の理解も必要
- 学校のどのクラスにもサポートが必要な子どもいるということが前提で対応する必要がある

●プラン6 学校・家庭・地域が一体となつてともに進める教育

- 評価すると「学校・先生がんばれ」という話になる
 - 地域全体、町で子どもを育てる仕組み、その中で町づくりの課題も考える、そういう人を増やしていく
- PTAとして、先生方がイベントに参加してくれてありがたい
 - 保護者も横のつながりを持ちたい親にとって良いこと
 - 急にボランティア制にしたが、保護者をもりあげていく
- 来年度、土日ワークショップをリニューアルする
 - 2/18に講師の方々に話を聞く会議をする
- 保護者がいろいろな教育活動をしてくれることに好感をもっている

→先生方は変わるので、地域がかかわるこの文化を引き継いでいければよい

◆教職員との意見交流

プラン2 学力の向上について、それぞれの部で来年度何ができる/するか？

教務：中島先生

- 教員の授業力をあげたいと考え、自主研修をやっている
 - ベテラン・若手で一つのテーマを学ぶ
 - 今年度はイベントが多く大変だったので、来年度がんばりたいと思う

体力向上：原先生

- 過去4年分をデータ化し分析した、ボール投げ、立ち縄跳びに課題がある
 - 急にできるようにならない、来年度は遊びの中で工夫しながらできればよい
 - 体力の授業でいろいろなものを活用してもらいたいと考えている
- 分析したデータを親に公開できたのは良いことだと考える

情報：小糸先生

- Chromeを子ども達は使えるようになってきた
 - ソフト/情報が随時更新されている、先生方も学びながら続けていく必要がある
- 6年生にプログラミング教育を行っている

学力向上：中里先生

- 漢字指導に力を入れている
 - 子どもの実態にあっていない指導もがあったりする、ベテランの先生のノウハウを若手に共有するよう取り組んでいる

研究：北村先生

- 大人になった時に、なにか生み出す
 - 自分で課題を見出し、課題を解決する、子供たち自身でできるようにする
 - 学力向上につながると考えている
 - 地域との連携もかかさずできることが必要
- 公園の花壇を借りての方を招き、3年生で何ができるかを進めている
 - 花壇の情報をホームページに表示するとか

生活指導：相磯先生

- 授業規律として子ども達が落ち着いて話を聞けることが大事と考える
 - 学習のしつけ = 生活指導 であり、理科・体育などの授業にも重要
- 授業として、楽しい・期待のあることが大事
 - つまらないと聞かない・やらない、工夫必要がある

倉光先生

- 毎日、あいさつが元気
- 先生が子どもに関わってくれている

以 上

次回：2023年3月4日（土曜）第六回 協議会

・令和5年度の活動など